

翔

とぶ

NO.13 25 IV, 1980

百万石蝶談会

HYAKUMANGOKU-TYÔDANKAI

石川県産の蝶に関する諸問題

百万石蝶談会・翔・編集部

本稿は、1978年6月4日、石川県取代会館にて最初の蝶談会を開催した折に、嶋城井が立案し配布した草案に、松本が修正を加えたためであるが、今回更に手を加えて本誌上に発表することとした。ここには、20余項目を示したが、松井作成の石川県産蝶類発見手引書と併用して今後の分布調査の基本としていただきたい。

もちろん、本稿に列記した種以外の蝶に関しての問題点が多々潜在しているかと思われるので、怠りのないよう調査に御配慮願いたい。

1. *Luehdorfia japonica* ギフチョウの県内各地での分布記録の集積及び食草の分布記録集積。

- その上での、分布・食性分化等の諸問題の検討
- 能登半島及び白山山塊における分布の可否とその意義
- 日本海側連続分布の意義と石川県産ギフチョウの位置付け
- etc

2. *Lycaeides* 属アサマンジミの諸問題

- 中尾・岩間以外に生息の可能性は?
- 生態(食草など)・変異(他産地との比較……とくに交尾器)など
- 種名について; 従来県産のものはトガクシジミと呼ばれた。
ssp. *tokakusiensis* トガクシジミ、ssp. *myokoensis* ミヨウコウシジミ、ssp. *yarigadakeana* ヤリガタケシジミ、ssp. *yagina* アサマンジミ、アオシジミ? さしずめ白山中宮産は、ssp. *hakusanus*? ハクサンシジミ!!

3. *Apatura ilia* ヲムラサキ黒色型の諸問題

4. 白山(中宮付近)における *Prebejus argus* ヒメシジミ

- 白山山麓岐阜県側、富山県利賀村に記録がある。
- 本県では松井正人、竹谷宏二、金平永二、某氏の4頭のみ。

5. *Parnassius glacialis* ヲスバシロチヨウの分布調査

6. 古い記録等の標本確認、記録地での生息の現状調査。

Narathura japonica ヲムラサキシジミ、*Shirözua jōnasia* エンカキシジミ、*Strymonidia w-album* カラスキシジミ、*S. mera* ミヤマカラスキシジミ、*Niphanda fusca* クロキシジミ、*Lycaei-des argyrognōmōn* ミヤマキシジミ等の分布調査。

7. *Strymonidia kibiensis*? バニモンカラスキシジミは生息するか?

- 他府県での産地の現在の環境及び地史的条件と比較して、本県での可能性はどうか。

8. *Zephyrus* 類の調査。

- 県内分布調査
- 食樹の調査。[概知の本県分布種で *Quercus* 食いのものが多く、うち常緑種(狭義 *Cyclobalanopsis*)からの記録を含む]
- *Chrysözephyrus hisamatsusanus* の本県分布調査。
長野・富山県境、富山県黒部川流域、福井県白根岳などに記録あり
- 宝達山など、山頂にブナが残る(原植生由来のものが多く)山地を中心に、能登半島での *Quercusia fujisana* フジミドリキシジミの分布調査。

9. *Spindasis takanonis* キマダラリッパ×生息の可否。

- 加賀地方一帯の松林の調査

10. 白山にタカネヒカゲ、ミヤマエンキチヨウは生息するか?

11. 白山の *Aglais urticae* コヒオドシについて

- 石川県産は分布五限種とされているが
- 安田信夫 (昆虫と自然 VOL 14. 10.14)氏による8mm撮影記録

12. *Maculinea teleius* ゴマシジミについて

- ssp. *hakusanensis* との関係

13. *M. arionides* オオゴマシジミ生息の可否

- 白山山麓にはクロバナヒキオコシが広範囲に分布するが、アリとの関係は?

14. *Neptis* 属 *philyra* ミスジチョウ・*alwina* オオミスジについて

15. 加賀海岸地方のツマグロキチョウについて

16. *Pieris* 属 *melete* スジグロシロチョウと *napi* エゾスジグロシロチョウについて

- 石川県下のエゾスジの分布はかなり広範囲のよう。
- 食草の記録集積。
- 二種間関係について (すみわけの可否など)。

17. *Neope* 属 *niphonica* ヤマキマダラヒカゲと *goshkevitschii* サトキマダラヒカゲについて

- 分布・食草等の把握
- 二種間関係
- 化性の調査 (とくにヤマ)

18. *Pelopidas mathias* チャバネセセリ・*P. jansonis* ミヤマチャバネセセリ・*Isoteinon lamprospilus* ホソバセセリの分布調査

- 注意すればいずれの種も少なくはないようである。
- チャバネは移動性 (ウラナミンジミやイチモンジセセリのような) の検討も。ミヤマチャバネはチャバネと同属だが定着性のようだがどうか?

19. *Pyrgus maculatus* チャマダラセセリの採集

- 福井県に記録あり

20. *Bibasis aguilina* キバネセセリ・*Aeromachus inachus* ホシチャバネセセリの分布調査

21. *Daimio tethys* ダイミヨウセセリの2型に関する問題

- 関東型 (原名亜種 *ssp. tethys*) と関西型 (関西亜種 *ssp. tai-seni*)
- 出現率、変異の調査
- 2型間の種々の比較 (地理的傾度、生態など)

石川県産ウスバシロチョウの記録

嵯峨井淳郎

石川県の *P. glacialis* ウスバシロチョウの記録は、小坂巖 (1952, 1952・1954) 小倉住夫 (1953)・手塚正一 (1956)・細川良寿・田川国土・小山千蔭 (1957)・泉丘高校生物部昆虫班 (1957)・武藤明 (1958・1965・1971・1975・1978)・小倉和彦 (1954)・高羽正治他3名 (1961)・名和正雄・名和秀雄 (1962)・細谷善雄 (1971)・砂山博 (1975)・竹谷宏一 (1978)・松井正人 (1978)・井村正行 (1979)・金平永一 (1979) 等により、石川県南部の加賀山地帯～低山帯、白山山麓一帯に広く生息すると報告され、現在 (1979) までの分布範囲は、医王山麓より江沼郡山中町までに至る、県中南部に集中、唯一つ押木町宝達山に飛地的に記録がある。

本県におけるウスバシロチョウは、平均的に大型で黒色鱗粉の発達する、日本海亜種といえ、暗化の傾向は強い。この要因として、降水量・遺伝的要素によるものと報告されているが、筆者らの所有する成虫標本を検した限りでは必ずしもそうだとは断言できず、白色の強いものもある。

県産ウスバシロチョウの問題点として、松井正人 (1979) により、野川以北より宝達山に到る地域における調査があげられるが、調査はあまり進展しておらず、野中勝 (未発表) による、金沢市荒山だけが、確認されている。宝達山に関しては、筆者により何度か

調査したが、本種の確認はできなかった。(宝達口側では食草となるムラサキケマンは確認できた) また宝達山を境にした富山県側の福岡町・木見市での記録も無い。

つぎに1970年代の未発表記録と、この報文を書くのに参考にした文献類を記す。なお、この報告を載せるにあたり、百万石蝶談会諸志の多大なる協力を得られた。深く謝意を表します。

《ツスバシロケヨウ採集・目撃記録》

1969-V-5	金沢市大森町	1♂	松井正人
1970-V-23	" 横谷	1♂	嵯峨井淳一郎
1970-V-24	" "	7♂♂	嵯峨井淳一郎
1970-V-25	" 熊走	1♂	嵯峨井淳一郎
1970-V-28	" "	10♀♀	嵯峨井淳一郎
1970-VI-7	" 医王山	1♂	松井正人
1970-VI-10	尾口村瀬戸	3♀♀	嵯峨井淳一郎
1971-V-16	金沢市熊走	10♂♂♀♀	松井正人
1971-V-30	" "	2♀♀	松井正人
1971-VI-5	" 湯涌温泉	1♀	嵯峨井淳一郎
1972-V-23	" 熊走	4♂♂1♀	松井正人
1972-V-23	" 金谷	4♂♂	松井正人
1972-V-28	" 犀川ダム	7♂♂	松井正人
1974-V-2	" 湯涌	2♂♂	井村正行
1975-V-11	" "	2♂♂1♀	井村正行
1975-V-20	" "	1♂	井村正行
1976-V-10	鶴来町八幡町	1♂	嵯峨井淳一郎
1976-V-16	金沢市熊走	20♀♀	嵯峨井淳一郎
1976-V-27	" 湯涌	1♂1♀	井村正行
1976-V-29	" 四方へ舎4番	1♂	嵯峨井淳一郎
1976-V-31	鶴来町八幡町	1♂♂♀♀	吉村久貴
1977-V-13	金沢市東市瀬	15♂♂2♀♀	嵯峨井淳一郎
1977-V-15	" 湯涌	1♂	井村正行
1977-V-29	" 犀川ダム	1♂	松井正人
1978-V-13	" 湯谷東	1♂1♀	野中 勝
1978-V-14	" 東市瀬	6♂♂	野中 勝
1978-V-14	" 額谷	1ex目撃	嵯峨井淳一郎
1978-V-27	越前村中宮	多数目撃	松井正人
1978-VI-1	鶴来町八幡町	3♀♀	吉村久貴

1978-VI-1	金沢市倉谷川	多数目撃	松井正人
1978-VI-	" 角間川斜面	"	井村正行
1979-V-19	" 荒山	1ex目撃	野中 勝
1979-V-19	" 卯辰山墓地	1♀	金平永二
1979-V-20	" 板尾	3ex	吉村久貴
1979-	山中町生木	4♀♀	松井正人
1979-VI-3	尾口村新岩間温泉	3♀♀多目撃	松井正人
1979-	息越村仏師ヶ野	1♀	松井正人
1979-VI-9	金沢市板尾	1ex目撃	野中 勝
1979-VI-17	白峰村白山釈迦道口	1ex	井村正行

《参考文献》

- 小坂 薇 (1952) 石川県の蝶相について (予報)
石川県生物学会誌 2(1): 4~9
- (1952) 石川県の蝶相について
- 小倉住夫 (1953) 金沢を中心とした石川県の蝶
新昆虫 6(12): 30~31
- 小坂 薇 (1954) 石川県産蝶類目録
- (1954) 石川県における蝶相考察
- 手塚正一 (1956) 金沢市付近の蝶相 (オ1報)
とっくりばち 1: 2~5
- 細川良寿・田川国土・小立千蔭 (1957) 内川付近の蝶
とっくりばち 3: 22
- 泉丘高生物部・昆虫班 (1957) 金沢周辺の蝶
とっくりばち 5: 10
- 武藤 明 (1958) 石川県の蝶
とっくりばち 6: 2~17
- 小倉和彦 (1959) 能登半島中部の蝶 とっくりばち 7: 8~10
- 高初・亀井・徳本・山本 (1961) 倉ヶ岳昆虫採集会記録
とっくりばち 10: 2~7
- 名和正雄・名和秀雄 (1962) 能登半島の主なる昆虫
中部日本自然科学調査団報告・オ5報
- 武藤 明 (1965) 能登半島学術調査報告書
- 納谷善雄 (1971) 加賀江沼地区の蝶について
- 武藤 明 (1971) 石川県の蝶相 石川むしの会特別報告 2: 2
- 砂山 博 (1975) 羽咋地方のチヨツの目録
とっくりばち 30・31: 1~3
- 武藤 明 (1975) あげはちょう 石川県大百科事典

武藤 明 (1978) 鱗翅目 石川県の自然環境
 竹谷 宏二 (1978) 表紙写真 とっくりばち 90:1
 松井 正人 (1978) 深谷の蝶 翔 1:2
 井村 正行 (1979) ミスジチョウ・ウスベンロチョウ・ウラゴマダラの
 産地確認追加 翔 6:9
 金平 永二 (1979) 採集メモよりその2 翔 9:9-11
 松井 正人 (1979) 石川県産蝶類発見手引書

妙高々稟採卵記

諸道 秀人

筆者は、1980年2月19日、金沢工大施工研究室の卒研究生と共に、妙高高原へ行く機会を得た。池の平カヤバスキー場の中腹のロッジ周辺にあったミスナラの大木より、ジヨウザンミドリシジミ3卵、ダイセンシジミ7卵を発見した。ダイセンシジミは、6連発であって、あまりのうれしさに、コケてしまった。

この時期のダイセンシジミ卵は、非常に黒く汚れており、白いジヨウザンミドリ卵とは一見して区別できる。

また、石川県一里野スキー場でもオマリフト終点近くのミスナラよりジヨウザンミドリシジミ7卵を得た。この時は、スキーをはかずに、カンジキをはいていたので、変態とまちがわれた。

昆虫日記

諸道 秀人

- 3月17日；倉ヶ嶽産のウラゴマダラシジミ全卵を徹庵より出す。
 18日；飼育中のアカアシクワガタ(昨夏採集の白山三ツ右産)一頭死七を確認。
 19日；ウラゴマバ化開始。ただレ食いつき悪し。
 20日； $\frac{2}{3}$ 程度ふ化。月刊おし(№10.P)の飼育方法をやめ、イボタのさし木の容易さを利用して、コップの中に砂を入れ木を含ませて木をさしてかく方法をとる。卵塊を虫ピンで木にとめる。自力で上まではい上り、下ることはなく、食いつきは極めて良好。
 21日；幼虫は、新芽と幹のすき間にひそみ、新芽に丸い小さい穴をあけて食べる。

- 3月22日；摂食に供って黒色から淡色になる。
 23日；二・三頭みからびて死亡。
 24日；月刊おしの飼育方法では、新芽の伸長はのぞめないが本方法では、幼虫の生長に供って芽が延び、レカも枯れない。
 25日；食糧非常に大きくかつふんが自立つ。
 26日；幼虫は、台座より新芽までよく歩く。
 27日；午後、倉ヶ嶽へ行く。途中、分岐点近くで、ミスジチョウの越冬幼虫を一頭採集。その後同町内のイロハモミジをさがしたが、成果なし。また、同地点においてジヨウザンミドリシジミ一頭採集した。同町内のウラゴマダラシジミもすでにふ化していた。
 積雪約70CMぐらいで、ところによって完全にとけている。
 28日；今日も、午後倉ヶ嶽へ行く。昨日のミスナラでジヨウザンミドリシジミ2頭を採集。近くの斜面のモミジやアオダモも見たがボーズである。ミスナラの芽もかなりふいているので、もうふ化も近いだろう。
 帰路、道傍おいのミスナラを見たが、ダイセンシジミ一頭塊二頭を得ただけである。倉ヶ嶽のポイントが高い(川瀬英夫氏談)関係なのか、いずれも雪により倒れていた木であった。今後、倉ヶ嶽のチョウは、すべて確認が必要ではないか。

← 1980年オ1回例会の記録 →

80年オ1回例会を1980.4.10(休)PM7:00 松井会員宅にて開催。恒例となっていた、赤坂プラザ内喫茶ミリーナは定休日のため、当初予定を変更し、松井氏にいろいろとお世話いただいた。出席者は、松井・野中・岩下・諸道・井村・吉村・金平・竹谷・嶋根井の9氏。話題は、今シーズン幕明けのギフ4ヨウ談義にはじまり、ヒサマツ探索失敗～オサムシ～コバヤハズ～フタスジカタビロ etc と続いた。その他、松井氏より加賀方面へのギフ分布調査協力依頼。野中氏よりヒサマツ(残念ながら石川泉産ではない)の飼育経過発表と〇〇産の××××の食いつきの悪い話など。竹谷氏より、氏撮影による遺言誌の表紙写真(199春、平栗にて産卵中のギフ4ヨウ)の腕前ヒーロー。夕々に「とっくりぼち」の発行があった話。----- そして、嶋根井より、「翔」7・8・9・10・11・12・号外の編集担当をしたが、4月1日付で、金沢市外電話局より松任電報電話局へ転任したため、従来のような、ゼロックスコピーの自由が

きかなくなり、今後は再び会費(実費)徴収による発行となる旨、報告をうけ、出席者の了承を得た。

尚、野中氏より引継いだ会費の残金(5025円)は、未使用であることの報告もうけた。

次回例会にて1年分¥1000(家計の苦しい方は¥500×2でも可)を徴収いたします。また、余裕のある方の寄付は大歓迎です。

<山崎井記>

← 会員の動き →

松本和馬氏より、都合により退会の申し出があった。どのような理由で退会するのか不明だが、本会発足当初の氏の巧績は多大なものがあり、"翔"発行の重要人物であったことは全会員の認めることである。近々、昆虫と自然ギフ特集号に執筆されると聞くが、氏の今後の御奮闘を心から祈り、去る人の花むけをしたい。

井村正行氏は、借金を覚悟でマイホームを新築中である。ウワサによれば立派な標本室が設計図の中にデーンとあるとか、晴れて落成が楽しみである。余談ながら、氏の脱皮したあとの現在のアパートのあとを借りる人が気の毒であるな。

松井正人氏は、念願のマイカー(スバルレオーネ)を購入、今春からの採集旅行に備えた。しかしリッター当り7KMとは現実には厳しいですな。

松井氏は、2月~3月と約2ヶ月間、社用で新潟に出張した。せっかく遠方へ来たのだからと、ついでにもう少々足をのぼし、ある種を〇〇卵せしめ、悠々帰京された。が、ベン・ゴシやモロムシに寄生されがっかりしている。

岩下泰子嬢は、今春、金沢尚陽高校を卒業、晴れて金沢女子短期大学(口文科)に入学された。また、この春休み中に運転免許を取得され、今後の採集行動を有利にするための準備をされた。

岸田典夫氏(ここしばらく連絡とれず)も今春、めでたく金沢経済大を卒業され、阪神方面へ就職されたという。

ここ何回か例会を開く前にハカキにて通報し、出席を促したが、一度も連絡がなく、音信不通なので、自動的に退会処理とした。

4月上旬、平栗~窪あたりへ今年も県外勢がおしよせたと聞く。

嵯峨井会員は、宮崎県の友人への郵送用のギフ4ヨウ採集に渚方面へ出かけた。4月11日(金)は滋賀県よりの某氏、竹谷宏二氏、川瀬英爾夫妻、4月12日(土)は、八木橋氏、川瀬英夫氏、松田使氏に出会い、中々にぎわいたったが、ギフにとっては、ゴナンの2日間であった。

松井正人氏は、4月20日(日)、岩下会員の情報を元に、強風について、鶴来方面の福岡、その他へギフ4ヨウ確認に出かけた。

カタクリが一面満開にもかかわらず、去年のつ化卵をつけたヒカン(?)を見つけたにとどまった。

目 次

石川県の蝶に関する諸問題	-----	編集部	-----	1
石川県産ウスバシロチョウの記録	-----	嵯峨井淳郎	-----	2
妙高高嶽採卵記	-----	諸道秀人	-----	7
昆虫日記	-----	諸道秀人	-----	7
1980年オ1回例会の記録	-----	嵯峨井記	-----	8
会員の動き	-----			9

期

№ 13

1980年 4月 25日(金)

発行：金沢市三〇新町4-9-34 松井 正人方

百万石蝶談会

編集：嵯峨井 淳郎